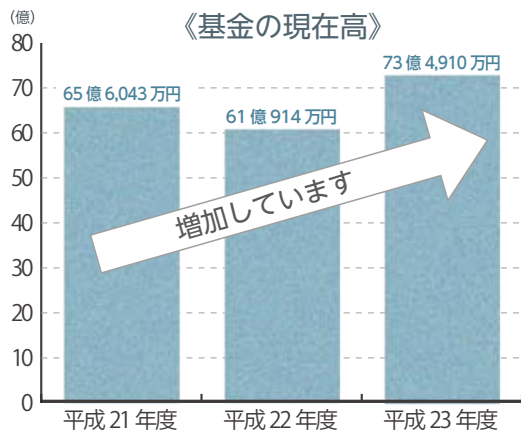


市の貯金は73億4,910万円です！

市の貯金に当たる「基金」は、災害発生等の緊急時の対応や教育・文化の振興、福祉の向上などのために積み立てて活用しています。

平成23年度は、東日本大震災からの復興に関する事業推進のため、震災復興基金を設置し、6億3,456万円を積み立てました。また、将来の支出に備えて財政調整基金4億3,124万円の積み増しなどを行い、全体で12億3,995万円の増となり、平成23年度末の基金残高は、73億4,910万円となっています。なお、市民一人当たりで換算すると11万6千円となります。

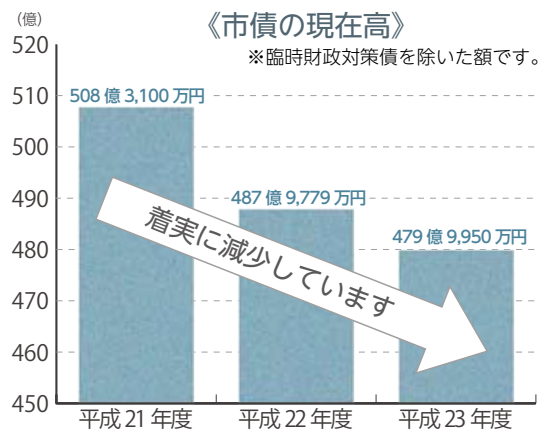


市の借入金は479億9,950万円です！

学校や図書館、道路などを建設するには多額の費用が必要なことから、借入金を活用して事業を行っています。これらの施設は、長年にわたり使用することになるので、次の世代を含め、使う人みんなが公平に費用を負担してもらうことが借り入れをする大きな理由の一つです。

平成23年度末の残高は580億2,116万円ですが、後年度に交付税で措置される臨時財政対策債を除くと479億9,950万円です。

なお、市民一人当たりで換算すると75万5千円となります。



計画的な繰り上げ返済を行っています！



今後も将来にわたり安定した行政サービスを市民の皆さんに提供できるよう、健全な財政運営に努めていきます。

合併前の旧4市村では、借入金を有効に活用して道路や下水道、福祉・教育施設などの整備を行ってきましたが、借入金の残高が増え、返済の負担が重くなっていました。

財政健全化のためには、大きくなり過ぎた借入金の残高を減らすことが必要です。そこで市では、計画的な借り入れと返済を行うとともに、市税や補助金などの収入確保と事務事業の見直しなどの経費節

減に努め、捻出したお金で繰り上げ返済を実施してきました。

繰り上げ返済のメリットは、翌年度以降の利子が節約できることです。平成23年度は、1億9,966万円の自主的な繰り上げ返済の実施で、419万円の利子が軽減できました。

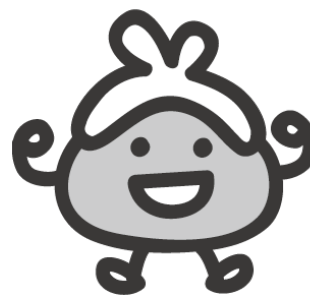
利子節約分で捻出した財源は、市民福祉の向上に活用することができます。

市の財政状況を公表します

市の財政について説明します。



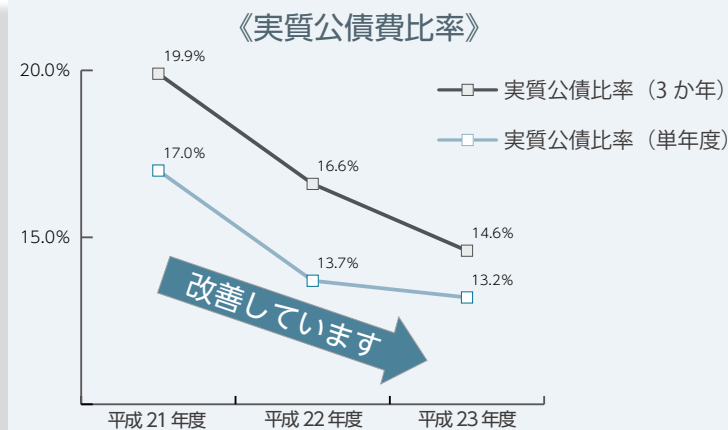
イラスト提供
本町がずこさん「がまくちやん」



皆さんから納めていただいた税金などのお金がどのように使われているのか、また、市の貯金や借入金はいくらあるのかなどを知っていただくために、市では、毎年6月と12月に財政状況を公表しています。

今月号では、現在の財政状況と平成23年度決算の概要をお知らせします。

財政指標 健全化判断比率



国が示す4つの指標（実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率）で、市の財政の健全性を見てください。



実質公債費比率が大幅に改善しました！

借入金返済額の割合を示す実質公債費比率は、3か年平均では14.6%となり、前年度と比較して2.0ポイント改善しました。

【健全化判断比率（平成23年度決算）】

指標	内容	白河市	早期健全化基準 (イエロカード)	財政再生基準 (レッドカード)
実質赤字比率	一般会計※1を中心とした赤字の割合	赤字なし	12.62%	20%
連結実質赤字比率	一般会計、特別会計※2、企業会計※3のすべての会計の赤字の割合	赤字なし	17.62%	30%
実質公債費比率	年間の借金返済額の割合	14.6% (3か年平均)	25%	35%
将来負担比率	将来負担が見込まれる負債の割合	126.5%	350%	

※1 一般会計 教育や福祉、道路整備などを行う行政の基本的な会計
 ※2 特別会計 国民健康保険や公共下水道事業などを行うために一般会計と区別している会計
 ※3 企業会計 水道など、民間企業と同様に利用料金などの収益で運営している会計

財政健全化が進み、市の「健全化判断比率」は、いずれも国の基準内となっていますが、他の自治体と比較すると高い水準にありますので、引き続き財政健全化に取り組んでいきます。





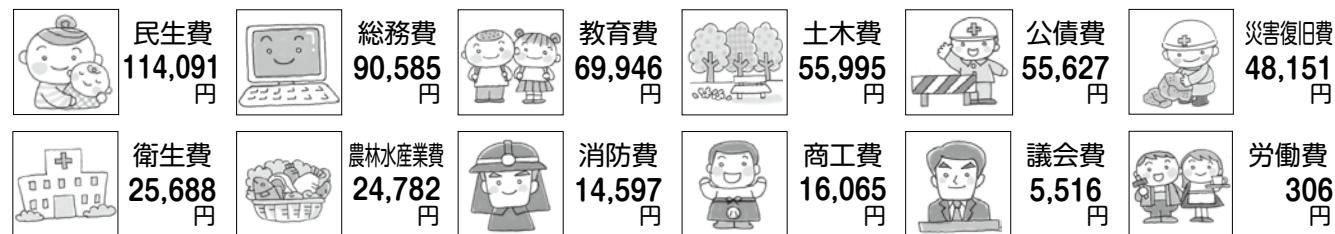
【1人当たり・1世帯当たりの市税の負担と使われたお金は？】

1人当たりの
市税の負担額 **119,503円**
使われたお金 **521,349円**

1世帯当たりの
市税の負担額 **325,223円**
使われたお金 **1,418,834円**

※平成24年3月31日現
在の住民基本台帳人口
・世帯数で算出
人口 63,617人
世帯 23,376世帯

《1人当たりに使われたお金の内訳》 ※歳出決算額を行政の目的別に分類し、1人当たりの額を算出したものです。



特別会計

特別会計は、特定の収入で特定の事業を実施するための会計です。一般会計と区別することで、それぞれの事業の収支や運営実績を明確にすることができます。市には、国民健康保険や公共下水道事業など、14の特別会計があります。

企業会計

企業会計は、地方公共団体が社会公共の利益を目的に経営する地方公営企業の会計です。主に、利用者が支払う料金収入で事業を行っています。

区分	歳入	歳出	差引
国有林野払受費	18万3千円	18万3千円	0円
教育財産	98万5千円	98万5千円	0円
小田川財産区	1,356万7千円	1,356万7千円	0円
大屋財産区	193万4千円	8万6千円	184万8千円
樋ヶ沢財産区	1,706万9千円	1,706万9千円	0円
土地造成事業	3,500万9千円	2,585万5千円	915万4千円
国民健康保険	69億9,420万4千円	64億907万2千円	5億8,513万2千円
後期高齢者医療	4億8,780万円	4億8,602万3千円	177万7千円
介護保険	41億8,236万1千円	40億7,454万6千円	1億781万5千円
地方卸売市場	2,388万円	2,388万円	0円
公共下水道事業	23億3,192万8千円	22億9,935万8千円	3,257万円
農業集落排水事業	16億9,087万円	15億7,650万8千円	1億1,436万2千円
個別排水処理事業	6,112万5千円	6,112万5千円	0円
簡易水道事業	4億5,077万5千円	4億394万3千円	4,683万2千円
合計	162億9,169万円	153億9,220万円	8億9,949万円

【水道事業】

区分	歳入	歳出	差引
収益的	9億7,002万5千円	10億533万2千円	△3,530万7千円
資本的	6,669万5千円	4億992万8千円	△3億4,323万3千円

※収支の不足分は、内部留保資金等で補てんします。

【工業用水道事業】

区分	歳入	歳出	差引
収益的	4,222万4千円	4,222万4千円	0円
資本的	2,618万1千円	5,111万7千円	△2,493万6千円

※収支の不足分は、内部留保資金等で補てんします。



◇市の財政についてもっと知りたい方は、市ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/>
《くらしのインデックス → 地域づくり・行政 → 財政》

☎本庁舎財政課 ☎1111 内2332

平成23年度決算の状況

一般会計

一般会計は、福祉や教育、道路整備など、市の行政運営の基本的な事業を行う会計です。平成23年度の決算は、歳入総額364億7,350万4千円に対し、歳出総額331億6,665万7千円で、差し引き33億684万7千円の「黒字」決算となりました。なお、翌年度に繰り越す事業の財源15億7,606万1千円を差し引いた実質収支額は、17億3,078万6千円でした。これは平成24年度の借入金の返済と貯金の積み立て等に活用します。

歳入総額
364億7,350万4千円
前年度比 23.3%増

東日本大震災の影響で市税等が減少し、自主財源の確保が困難な状況の中で、震災復興特別交付税、国・県支出等を確保することにより、震災からの早期復旧・復興を目指し事業を推進しました。

歳出総額
331億6,665万7千円
前年度比 22.0%増

